

# 天間地区 生涯学習推進会

人口：6,595人 世帯数：2,791世帯（平成31年1月1日現在）



スローガン

融和と連帯の住民が主役で三世帯の夢が叶えられる優しいまち天間



会長 加藤 崧

沿革

天間地区生涯学習推進会は昭和47年7月に鷹岡地区の一員として富士市社会教育推進協議会の導入と同時に青少年健全育成事業に取り組みを始めとして地区全体を網羅する地区体育祭や文化祭などを中心とした活動団体としてスタートした。その後昭和59年4月鷹岡地区から分離独立して「天間地区社会教育推進会」が立ち上がり自治統治に直結する、地区住民が一同に会してふれあい中から『絆の醸成』を計る独自色のある活動を活発化した。平成2年に生涯学習振興法が施行となり、生涯学習推進会として地域の活力をサポートする基幹活動団体として四半世紀を経て現在に至っている。

## 天間のみどころ

### 【天間地区生涯学習の理念】

急激な社会の変化を受け、地域生活環境は都市化が進み、生活の多様化や少子高齢化により、安全安心で豊かな地域環境を継続するには従来型の行政主導は限界にあり、地域住民の主体性が求められる時代ニーズが到来しています。これらに乗り遅れない取り組みを活動の指針とする舵の切り直し、つまり住民の手で持続可能な仕組みづくりを実現することが不可欠であることを背景に伝統的な町内会をはじめ地縁組織を巻き込んだ活動体としてのプロセスを理念に掲げています。

具体的には、地縁組織を統治する5区1町内会の区・町内会長を団体の地区支部長におき部員の選任や事業の展開をきめ細かくフォロー出来る組織体制を基盤に活動部門の5部門に担当副会長を充て各部部长を中心とした合議体制で事業を取り纏めています。

### 【天間のみどころ】

天間地区は市の北西端に位置し都市計画ゾーンでは『保全と共生エリア』と位置付けられており、地域連携交流機関軸の延長線上にあります。JR身延線沿線には製紙工場が多く富士山の恵み伏流水の恩恵を受けた工場が栄えています。一方裾野に広がる地域は住環境の整備された宅地が広がり一時期は賑わいのあったまちであり、象徴的なのは縄文遺跡が眠る伝統文化の街でもあります。

## 生涯学習の活動

### 【まちづくり協議会とのかかわり】

平成26年度まちづくり協議会が立ち上がった時点で、基幹団体の役割としての立ち位置で地区を統治する自治会を支える実施部門としての役割を担い、『地区行動計画』の主管団体として防犯・交通安全・児童の見守り・文化教養・健康増進および米づくり活動など主力賑わい事業の推進役として、まちづくり協議会構成団体の一つとして補完団体と協力して地域力の醸成に努めています。この結果は明らかで従来の個の成果を遥かに上回り、補完団体を横断的に巻き込んだ束になった成果により、地区全体が事業を通じて一体感のあるバランスの取れた地域づくりに貢献しています。



▲米づくり「田植風景」

## 青少年育成部

天間地区は急速な少子化の進行や就業形態の多様化、情報化社会の変遷を経て青少年を取り巻く環境が大きく変化して、全国的にも青少年による重大事件も多発傾向にあり天間地区ニーズとしても、青少年健全育成に資する指導や未来を担う小学生の見守り活動などが地域にとっても大変重要な位置づけとなっています。

従来から続けてきた活動に現代ニーズを加え進化した健全育成を持続させることが重要課題です。

そのために、まちづくり協議会を通じて多くの関連団体を巻き込んでタッグを組んでの隙間のない育成プランを実行に移しているところです。補完団体は駐在所・青少年相談所・小中教職員・民生児童員・地域安全推進員・自治会組織など多義に渡った啓蒙活動を推進しています。

主な活動は命を大切にする啓蒙講演会・保護者向けの講演会・三世帯が揃う探索会・歴史を尊ぶ講演会・児童の見守り活動・米づくりプロジェクト・野球教室の実施など補完団体含めた『束』になった活動の主導役を演じています。

## 成人教育部

天間地区は少子高齢化が著しく進みまちの活力が低下することが懸念される昨今、個人の学び、生きがいや働き甲斐と言った生涯学習の環境が整っているかが地区の活力の資源としてあることが大切です。

生涯学習には家庭や学校での学びから多様な社会活動・趣味・美術・学術など歴史文化教養の育みを通じた繋がりができ地域力が向上する流れを念頭に天間地区成人教育部は全てに奉仕の精神の上に立ち、市民が一体となり活動を進めています。

活動の歴史を振り返ると、昭和59年の第1回文化祭は社会教育推進会にスタートして5年後の平成2年に鷹岡地区からの分離独立に伴い現まちづくりセンターに会場を集約して文化祭が行われるようになりました。当時は『人・物・金』も不足した中で、バザーを中心にし市民手作りの事業ながら充実感に満ち溢れていました。

平成15年に多目的ホールが完成してこけら落としの文化祭が開かれたことが懐かしく思い出されます。これを機に文化祭の充実が現在に至っています。現在では各町内会から推薦された32名の部員で文化祭事業を企画から実施に至るまでまとめています。

## 体育保健部

昭和41年～昭和59年までは鷹岡地区の分区として、天間5区1町内会は鷹岡地区体育祭に参加していました。昭和59年独立後社会教育推進協議会の中の専門部として体育保健部が誕生しました。地区民の健康増進を旗印に体育祭や各種スポーツ大会などスポーツを通じた一体活動により住民相互の交流、団結や絆を育み地域力の高い地区を目指すことは今も普遍です。

一番の主行事は体育祭であり各区町内会から延べ3000人を超える地区民が一同に会します。

これこそが郷土愛を育むプロセスであり得点競技に競い合う勇姿は頼もしく感じる一瞬です。

体育祭の他、健康増進を育む各年代・層別のスポーツ大会を年間通じて12大会実施しており参加者も年々増加しているが、地区の課題としては生活習慣病が多いことが気がかりであり一層の健康増進活動に目を向けることに力点をおきたいと思っています。



▲体育祭百足リレー

## 安全教育部

昭和59年鷹岡地区の分区として各町内会別に交通安全パレードを主体に市民安全大会を柱とした活動で始まりました。当時は親子三世帯1000人規模で小学校まで30分のパレードで現在と同じ式典が行われる様は見事でした。

その後、平成12年からは折からのモータリゼーションの発展により地域の交通環境が激変して、安全確保の面からパレードは中止となり、現在の代表者による300人規模に縮小されました。地域の安全安心は地域で守るを合言葉にまちづくり協議会（安全会議）と連携スクラムを組む安全教育部の存在が欠くことが出来ません。

体制は各町内会から推薦された30名の部員により交通安全・地区内事業の交通整理・安全大会の実施について活動しています。



▲安全大会